

メバチ 東部太平洋

Bigeye tuna *Thunnus obesus*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0 m・170 kg
- 寿命：10～15 歳
- 性成熟年齢：雌は約3 歳
- 産卵期・産卵場：周年、表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料

漁業の特徴

主要な漁業ははえ縄とまき網であり、1975～1993 年のはえ縄による漁獲が大部分を占めていたが、1990 年代に入って集魚装置 (FAD) を使用したまき網操業が発達すると、まき網の漁獲が急増するとともにはえ縄の漁獲が減少した。まき網漁業について、当初は米国船が多かったが、1970 年代の終わり頃からメキシコ、ベネズエラ船が増加するとともに米国船が減少し、1990 年代に入るとエクアドルやバヌアツ船が増加した。伝統的にイルカ付き操業と素群れ操業が行われてきたが、これらは主としてキハダを漁獲していた。1990 年代に FAD 操業が発達すると、まき網によるメバチの漁獲量が急増した。まき網船の隻数は 1961 年から 2024 年の間に 125 隻から 238 隻に増加し、それに伴い魚艙容量は 3.2 万 m³ から 26.1 万 m³ に増加したが、過去最高値を記録した 2019 年よりやや減少した。まき網総操業数は 2022 年に過去最高値の 33,316 操業を記録し、2024 年の予備集計値は 32,804 操業であった。はえ縄漁業について、我が国漁船は当初は缶詰等の加工品原料としてキハダとビンナガを漁獲していたが、1970 年代半ばには、刺身需要の増加と冷凍設備の改善によってメバチへと主たる対象魚種を変更した。2000 年以降、南北アメリカ沿岸域への出漁が減少し、現在は赤道を挟んだ南北 15 度の範囲が主な漁場となっている。台湾船は 1960 年代から出漁しているがビンナガを主対象としており、韓国船は 1970 年代半ばから操業がある。このほかに、中国、米国、バヌアツ等が漁獲を行っている。

漁獲の動向

1975～1993 年までは、はえ縄による漁獲が大部分 (約 88%) を占めており、1986 年に 10 万トンに初めて達した。その後、1990 年代に入って FAD を使用したまき網操業が発達すると、まき網の漁獲が急増するとともにはえ縄の漁獲が減少した。総漁獲量は 2000 年にピーク (約 14.3 万トン) を記録した後、減少傾向となり、2024 年には約 5.5 万トン (予備集計) で前年と同等であった。

メバチ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	5.5万～10.5万トン 最近(2024)年:5.5万トン 平均:7.5万トン(2020～2024年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0.2万～0.5万トン 最近(2024)年:0.2万トン 平均:0.4万トン(2020～2024年)
資源評価の方法	統合モデル(SS)
資源の状態 (資源評価結果)	$S_{2024} / S_{MSY} = 1.05$ $P(S_{2024} < S_{MSY}) = 0.46$ $P(S_{2024} < S_{limit}) = 0.002$ $F_{2021-2023} / F_{MSY} = 0.79$ $P(F_{2021-2023} > F_{MSY}) = 0.25$ $P(F_{2021-2023} > F_{limit}) = 0.001$ MSYレベルの点推定値に基づいた判断では過剰漁獲状態にも、乱獲状態にもない
管理目標	検討中
管理措置	以下の措置が2026年に適用。 科学的な検討に基づき措置の有効性が確認された場合は、2028年まで継続。 (1)まき網漁業 <ul style="list-style-type: none"> 64日間の全面禁漁(メバチの漁獲量に応じて禁漁期間を延長^{*1}) 沖合特定区での1か月間の禁漁 FADの使用数の制限² *1:禁漁期間の延長規定(前年の船別メバチ漁獲量に基づく) <ul style="list-style-type: none"> 1,200トン以上:+10日 1,500トン以上:+13日 1,800トン以上:+16日 2,100トン以上:+19日 2,400トン以上:+22日 *2:FADsの年間使用数制限(船の魚艙容量に基づく) <ul style="list-style-type: none"> 182m³以下:50基 363m³以下:85基 1,199m³以下:210基 1,200m³以上:340基 (2)はえ縄漁業(国・地域別メバチ漁獲枠) <ul style="list-style-type: none"> 日本:32,372トン 韓国:11,947トン 台湾:7,555トン 中国:2,507トン 米国:750トン
管理機関・関係機関	IATTC
最新の資源評価年	2024年
次回の資源評価年	2027年

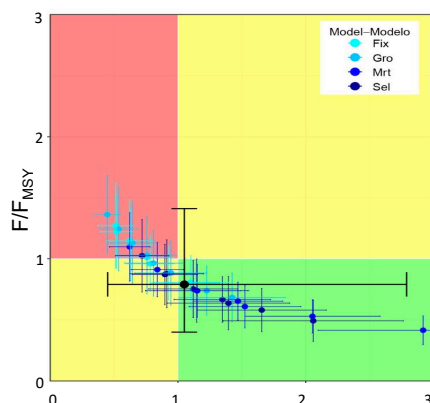


図 6.4 4つの不確実性を考慮した最新の資源状態
 縦軸は、暫定目標管理基準値(F_{MSY})に対する2022～2024年の漁獲の強さ(F)。横軸は暫定目標管理基準値(S_{MSY})に対する2025年初頭の資源量(S)。色付きの点とエラーバーは各モデルの中央値および95%信頼区間を、黒点と黒線はそれぞれ全モデルの中央値と95%信頼区間を表す。